あおい通信　第144号

第144号 平成29年5月1日
リハビリテーション
デイサービス葵・編集委員会
練馬区東大泉3－17－5
カトウビル3F
電話　03－3978－0919

日本の世界遺産めぐり
その二十一　和紙　（文化遺産）

和紙

和紙（わし）わがみ）は、日本古来の紙。欧米から伝わった洋紙（西洋紙）に対して日本製の紙のことをさす。日本紙と同義

特徴

一般的な「和紙」の特長は「洋紙に比べて格段に繊維が長いため、薄くとも強靭で寿命が比較的長く、独特の風合いをもつ」と言われている（但し、種類や用途によって、一概には断言できない）木材パルプ原料から生産される「洋紙」と比較すると、原料が限られ生産性も低いために価格は高い。

伝統的な漉き方では、独特な流し漉き技術を用いるが、「現代の和紙」（和紙風の風合いを持つ紙）は需要の多い障子紙や半紙を中心に、伝統的でない原料を使ったり、大量生産が可能な機械漉きの紙もある。しかし、目視だけでは区別が難しい場合も多い。

伝統的な製法と異なる原料を用いたり、機械漉きの紙は、歴史的に耐久性や経年劣化に対する検証が不十分であり、シミの発生や繊維の脆化などの欠点を持つ物も多い。

そのため日本古来の原料と製法で作られた紙という意味での「和紙」との混用を認めない意見もある。

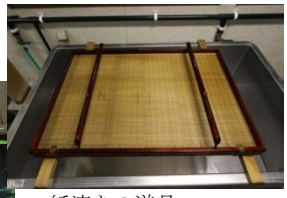
「和紙」は世界中の文化財の修復にも使われる一方、「千年以上」とも言われる優れた保存性と、強靭で柔らかな特性を期待して、日本画用紙、木版画用紙等々、独特の用途を確立しつつある。日本の紙幣の素材としても用いられる。一部、工芸品の材料・家具の部材・紙塩などの用途にも使用され、「和紙」と呼ばれる以前の江戸時代には日本中で大量に生産され、建具の他に着物や寝具にも使用されていた。近年では、天然自然の素材としてインテリア向けの需要が高まったり、卒業証書をはじめ、様々な習い事のお免状用紙などにも試用されることもある。

「和紙」の産地は全国に点在しているが、近年では日本古来の伝統的な製法による紙は、原料生産を含め生産者の減少（小規模な家内工業的施設が殆どのため）による供給の減少が危惧されている。

韓国にも楮（＊）の皮から作る伝統工芸用漉き紙があるが、和紙とは漉紙技術などが異なる。

（＊）楮（コウゾ）とはクワ科の植物でヒマコウゾとカジノキの雑種である。和紙の原料として使用し、外皮の下にある柔らかな内皮。

楮（コウゾ）



紙漉きの道具
簀（ス）と、桁（タケ）

世評・時評

一口に文明文化というが、文明と文化の違いは、文化は哲学・芸術・宗教・政治形態等の精神的所産で、文明は機械的や技術的所産を指すのだそうだ。

我々の先祖が樹上生活から地上に降りた時、危険から身を守るために石やこん棒等を使い、野獣の怖れる火を使う技術を身に付けた。これこそが文明の夜明けで、人類は捉えた獲物を食料以外にも衣服や敷物など利用し、骨からは色々な道具を作った。もしかして、骨や歯から作られた装身具は最初の文化だった・・・？

火は動物を寄せ付けず、暖を取ったり調理したり、衛生や栄養面も良くなったろう。また農耕によって定着が始まると、更に人口は増えたが、より良い土地を巡り争いが起ると、獣を捕る道具や火は武器となった。

争いの度に武器は効率の良いものが工夫され進歩した。

その後、争いは種族から民族、国家とグローバル化、争いは戦争に発展した。近代の産業革命やダイナマイトの発明等で、武器は更に巨大化し強力な殺傷力を持ち、軍艦、戦車、飛行機も参加し戦場が地上だけでなくなる。

そして今、武器は核兵器と化学兵器にまで発展、遂にシリアにサリン爆弾が落とされて、子どもを含む被害者の様子が世界中を震撼させるまでに至った。十二分に文明の恩恵に浴し享受しながらも、米国のシリア政府軍基地への攻撃や北朝鮮近海に空母派遣と情勢が緊迫し、日本への影響が懸念される今、文明とは一体誰の何の為のものかと思ってしまう。

（やぶにらみ）

雑記帳

豊洲移転か築地改修か

都の市場問題ＰＴ（プロジェクトチーム）小島敏郎座長らによる豊洲への移転と築地改修の両案の説明会があり、市場関係者には賛否両論が渦巻いた。「築地に残る流れができた」と評価する声の一方「市場を知らない人が描いた絵だ」との反発もあり、意見集約の難しさが浮き彫りになった。

豊洲は、土壌汚染対策法上は安全としたが、維持管理費が高く、六十年間の累積赤字が１・５兆円近くになる可能性を指摘。

築地は７年、計７３４億円で改修でき、維持管理費も豊洲より安いとし、豊洲の市場用地を更地にして売れば市場会計は豊洲移転案より改善するとした。都は１９９０年代に４百億かけて進めながら頓挫して以降、困難との見解を示しきたが、小島座長は「建築技上に問題はない。業者の皆さんが本当に築地で商売をしたいと考えているのかが重要だ」と会場に問いかけた。数百人が詰めかけた会場を埋めたのは主に仲卸の人達で、豊洲移転を求める声は出ず、「豊洲移転に傾いた最近の流れを変えられる」と、築地改修案を評価する声が相次いだ。だが築地改修案を評価するのは仲卸業者だけで、水産卸業者協会伊藤裕康会長は噴った。「市場を知らない人が、なんで偉そうことを言うんだ」と賛否両論。

どちらにせよ、東京都民の台所を担う大市場。良い方法での解決を願う。

Ｋ・ドラゴン

葵友の会　広報コーナー

4月の報告

２１日(金)　カラオケ「バンバン」にて。９名の参加。６月に１００回を迎えます。記念の大会にしたいと思っています。

5月の予定

１８日(木)　池袋「備長」ひつまぶしを食べます。

１９日(金)　カラオケ「バンバン」にて。

《事務局》

◆編集委員会より
「あおい通信」は、皆様からの原稿を募集しています。係員・飯島まで

ラジオ体操のおすすめ

増田義雄

心身共に健康で、いつまでも元気で豊かな生活を送れるか、昭和一桁生まれの私には「アンチエイジング」が最大の課題です。健康寿命を少しでも伸ばす為にどの様な健康づくりを心がけたらいいのでしょうか。日常の生活では自分の趣味を見つけ、笑門来福で大いに笑い、積極的に旅行や外出をして、出来るだけ多く自然にふれ合い、大勢の仲間と交流を深めて、より地域密着の楽しい暮らしをしたいものです。

先ずは毎日の日課として早朝のラジオ体操会に参加する事を、おすすめします。

私は毎朝、近くの文理大公園に5時30分に出かけ、自分流のストレッチとウオーキングを約40分位行い、6時10分から70名～80名の仲間と準備体操として、ストレッチ及び中国体操を行い、6時30分からNHKのラジオ体操第1、および第2を終え、6時40分より整理体操としてシャキシャキ体操および中国体操を行っています。朝の新鮮な空気を胸一杯吸って、身体に活力を与える体操は生活維持の源となっています。なおラジオ体操会の年間行事としては、元旦の東伏見稲荷神社への参拝から始まり、観桜会、春秋のハイキング、それに「市」の主催する市民祭りやスポーツ祭りにも参加して会員相互の親睦を深めています。又夏休みには小学校13校に指導員が出向き、ラジオ体操の指導を実施し、地域住民の健康維持、増進の為の支援を行っています。文理大体操会は平成27年9月に創立30周年記念式典を催しましたが、私は平成6年に入会。西東京市には現在7団体で連盟を結成、毎朝各会場で行っています。

よろこび

嶋田康子

私は、平成十七年の三月に葵さんに入れていただきました。

私はパーキンソン病という病気に六十二歳の時、なってしまいました。

パーキンソン病は、運動の機能が働かない病気です。ほっておくと体が動かなくなってしまう病気です。発病して十年間くらいは、現代の医学の発達のおかげでいろいろ薬や手術の方法もあり、努力によって普通の生活が出来ますがそれも、処方された薬をきちんと飲み、リハビリもきちんとして、でのことです。十五年目くらいになると個人差が大きく、自立の生活がなにかとむずかしく、私は腰曲がりになってしまい、予防の体操を続けていたのに杖や歩行器を使って動かなければならなくなりました。

私は診断されて十七年になります。普通の病気は養生して病を治すのですが、わたしの病は常に体を動かしていないと、病気が進んで、字が書けなくなったり、箸が使えなくなったり、転んだり、自分で着替えができなくなったり、声も出なくなったりと、生活がだんだんつらくなります。何とか普通の生活を願って葵さんにお世話になっています。

最近、こんな私にも小さな喜びがありました。お花見に連れて行っていただきました。桜がきれいでした。そして小さな外国のお嬢ちゃんと会話をしました。くるまの都合で、ポツンと一人でベンチに座っていると、お嬢ちゃんが寄ってきました。私は思わず社長さんの英語を思い出して「ホワッチュアネイム?」「ニーナ」「ニーナちゃんなのね」ニーナちゃんも私もにこにこ。こんな小さな喜びの中で毎日が過ぎていきます。

スタッフの皆さん、通所される皆さん、よろしくお願いします。

なんでも豆知識講座 八

つづき　絹田治夫

江戸城

太田道灌の築いた江戸城を、徳川家康が築き直した巨大な城郭。空前絶後の巨大天守を建て、各所に配置された櫓や門も、将軍家のふさわしい巨大さを誇った。

そして幕府の政治機構の中枢となった絢爛豪華な御殿が建ち並ぶ本丸を中心に、二の丸、西の丸、吹上げを配して、周囲に堀を巡らし、その外側に総構（そうがまえ）をもたせた巨大な城となった。

都営地下鉄大手町駅から徒歩2分、城の形態は平城、築城、1457年(長禄1)、1606年(慶長11)文化財区分、重要文化財（門3棟）国特別遺跡。主な遺構。曲輪、櫓、門、石垣、堀など。

「石橋と二重橋」

皇居の入口には、手前の石橋と奥の鉄橋があるが、この二つを二重橋というのは誤りで、二重橋は、本来は奥の鉄橋の呼称であり、江戸時代、その場所に橋桁が上下二重に組んである木橋がかけれていていたために、「二重橋」と呼ばれるようになった。

「伏見櫓」

二重橋の奥に見える伏見櫓は、西の丸の南西隅にある二重櫓。両側長屋造の多聞（たもん）櫓があり、ともに現在遺構である。伏見城の櫓を解体・移築したとのこともあるが、確証はない。別名「月見櫓」とも呼ばれており、皇居で最も美しい櫓といわれている。

「田安門」

千鳥ヶ淵を右に見ながら進み、田安門から北の丸に入る。田安門は、櫓門と高麗門からなる巨大な枡形門で、一部改修正されたが、江戸時代の現在遺構で、国の重要文化財に指定されている。

「清水門」

北の丸の東門である清水門は、櫓門と高麗門で形成された枡形の先にも折れ曲がりがあり、二重の枡形を形成して外敵の突破を防いでいる。現在の門は、1658年(万治1)に再建されたもので国の重要文化財。

つづく

正門石橋と伏見櫓

ふわふわ亭、わび助

―今思うこと―

額田美保

今、読む人をぐんぐん惹きつけるような魅力ある事を書けないものだろうか。私はいつもそう思う。書くことが好きというだけで書いて居る私、それでいいのだろうかと思うと自信がなくなって悩んで終う。

でも、好きなことを続けて行きたい気持ちを断ち切る事は出来ない、それが私の今の生き甲斐なのです。少しでも多く思った事を一生懸命書く積もりです。

私の生きて来た道で一番大きな事は戦争です。毎日のように空から爆弾が落される中での生活。現在では想像だに出来ない事ですが、恐怖に怯えながら生きるのが当たり前だったのです。

食料も生活物資も何も無かったのにそれでも生きた、生き残った。今にして思えば奇跡みたいなものですが、だからでしょうか、私は強くなれたのではないかと思います。

戦争中は愛国心に燃え国の為に死ぬ事を目標として子供の時から戦争が当たり前の中に居ましたから何事も我慢の毎日を普通と思って居たのです。それが考えても見ない平和の世に生きさせて戴き、老いても楽に暮らせるなんて思っても居ませんでした。平和な世の中これ程すばらしい事は有りません二度と戦争は駄目です。それなのに毎日のニュースは今戦争になっても可笑しくない程の危険を含んで居るのです。私にはそれが一番心配です。戦争の悲惨さは筆舌にて表せる事では無いのです。

戦争で亡くなった人たちはテレビも洗濯機も何も知りません。

自画像

キッチン　渕戸滝子

十月にキッチンに入り昼食調理の仕事をしています。

昨年四月まで、スーパーの総菜部に十四年間勤務しておりました。

利用者さんから、「美味しかった」との声を頂けるように、今までの経験を生かし、お役に立てるよう頑張りたいと思っております。

あおい俳壇・歌壇

青空に　飛行機雲が　まだ延びて
五分咲きの　桜の下を　散歩かな
一羽二羽　カモが遊べる　白子川

相田美代子